平成３０年度　教育事業

自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成講座（２年目）

１　事業概要

受講者は３日間、国立大洲青少年交流の家や大洲市を流れる肱川を活動の中心として、安全管理や実際の現場での指導者としての指導法・技術の習得などを学んだ。講義では、受講者自らが考え、発言する主体的な活動も盛り込んだ内容を取り入れた。最終日には、カヌーに乗って川下りを行い、河原の地形を見たり、アユを捕る「瀬張り」などを通過したり、自然体験活動を行うにあたって安全面において、配慮をする部分などを学んだ。

２　事業の目的（ねらい）

全国体験活動指導者認定委員会が制定した「自然体験活動指導者養成カリキュラム」に則り、青少年向け自然体験活動プログラムにおいて、発達段階に応じて適切かつ安全に指導ができる自然体験活動指導者（ＮＥＡＬリーダー）を育成する。

３　企画・運営のポイント

機構の法人ボランティア資格も取得できる内容とはせず、３日間１回の講座でＮＥＡＬリーダーの認定試験を受験できる講座とした。法人ボランティア養成講座との単位読み替えが可能な部分を前半に設定し、法人ボランティアの資格をすでに取得している参加者は、２日目からの１泊２日の参加で認定試験を受けられるように企画した。また、可能な限りフィールドワークを実施し、受講者が実際に考える場面も組み入れ、指導上のイメージができるよう考慮した。

４　期待される効果

参加が１回で済むため、ＮＥＡＬリーダーの取得のみを目的とした受講者からの申し込みが見込める。また、大半が学生である大洲の法人ボランティアも参加しやすく、法人ボランティアのスキルアップ研修として周知しやすい。肱川での実習を多く設定することにより、自然をより体感することができる。受講者それぞれの活動フィールドは違うが、指導者の立場になった時に、自分であればどのように対応するかなどを想定しながら多くのことを考え、学びを深めることができると考えられる。

５　主　　催　独立行政法人国立青少年教育振興機構　国立大洲青少年交流の家

６　後　　援　大洲市教育委員会

７　期　　日　平成３０年１１月３０日（金）～１２月２日（日）

８　場　　所　国立大洲青少年交流の家・肱川

９　対　　象　国公立・財団等の青少年教育施設職員、青少年教育に係る指導員やリーダー
都道府県・市町村の社会教育主事や社会教育担当職員
教職員や民間団体等で指導に携わる者やそれを目指す大学生等（１８歳以上）

１０　参加人数　１５名（定員２０名）

１１　参　加　費　【２泊３日参加者】３，８８０円　【１泊２日参加者】２，２４０円

１２　講　　師　東京海洋大学　学術研究院　教授　千足 耕一　氏（講義・演習４・５・７）
愛媛大学　教育学研究科　教授　山﨑 哲司　氏（講義６）
国立大洲青少年交流の家　次長　梅津 孝一（ガイダンス①・②　演習３）
※ＮＥＡＬ主任講師
国立大洲青少年交流の家　職員（講義・演習１・２）
大洲地区広域消防事務組合　消防署員（演習３）

１３　日　　程

【1 日目：11/30】
１２：３０～　集合・受付（参加者①：２泊３日）
１３：００～　開講式・ガイダンス①0.5H
１４：００～　講義・演習１「自然体験活動の技術（野外炊飯による夕食含む）」4.0H
１９：００～　講義２「青少年教育における体験活動」1.5H

【2日目：12/1】
９：００～　演習３「自然体験活動の安全管理」3.0H
１２：３０～　集合・受付（参加者②：１泊２日）
１３：００～　ガイダンス②0.5H
１３：３０～　講義・演習４「自然体験活動の指導」1.5H
１５：３０～　講義・演習５「自然体験活動の技術」2.0H
１９：００～　講義６「対象者理解」1.5H

【3 日目：12/2】
９：００～　講義・演習７「自然体験活動の特質」3.0H
１３：３０～　認定試験 0.5H・ふりかえり・閉講式

１４　活動内容

【１日目】

１日目は、法人ボランティアの資格がない社会人を中心に、８名が受講した。開講式に引き続き、主任講師である梅津次長が、ガイダンス①としてＮＥＡＬリーダー養成講座の大まかな流れや仕組みについて説明を行った。ガイダンス後は「自然体験活動の技術」として、所員がアイスブレイクやフィールドビンゴ、野外炊飯の指導を行った。アイスブレイクでは受講者の緊張を解きほぐしながら、アイスブレイクの意義や実施上の注意点についても説明が行われた。野外炊飯は「ちゃんこ鍋」を作り羽釜で米を炊いた。受講者は野外炊飯を通して、火起こしの方法や水加減などを理解した。また、「KYT 危険予知トレーニング」も行い、野外炊飯をしている資料(イラスト)を見て危険な部分について考え、活動班内

で意見を出し合った。

夜の講義では、当所企画指導専門職（清水大輔）が「青少年教育における体験活動」の講義を行った。無人島事業の御五神島での体験を基に、青少年教育における体験活動の意義や、発達段階に応じた体験活動の必要性について説明があった。受講者が青少年の抱える課題について考える場面や発表する場面もあり、全員が真剣に取り組んでいた。

【２日目】

２日目の午前は「自然体験活動の安全管理」として、気象条件による危険や、山や海などそれぞれの活動場所に応じたリスクの講義の後、肱川の河原で大洲地区広域消防事務組合消防署員から、CPR（心肺蘇生法）や AED（自動体外式除細動器）、要救助者の搬送方法など、現地（河原）での臨機応変な対応や具体的な安全対策についての演習があった。受講者からは、多くの質問があり、緊急時にすぐに対応ができるようにイメージしている様子が見られた。

午後からは法人ボランティアの資格をもった受講者等７名が加わり、梅津次長によるガイダンス②として、より詳しく指導者認定制度の仕組みと役割についての説明があった。引き続き「自然体験活動の指導」として、千足耕一氏（東京海洋大学学術研究院教授）による、指導者論や川の知識、これまでの水辺活動中の事故事例などについての講義があった。その後肱川へ移動し、「自然体験活動の技術」として、ライフジャケットの正しい着用の仕方、救助用具の扱い方などの説明を聞いた後、カヌーに乗り、カヌーの基礎技術獲得を目指した。

夜は「対象者理解」として、山﨑哲司氏（愛媛大学教育学研究科教授）による、各年代（幼児期、児童期、青年期）の発達段階を考慮することやリフレクション（省察）の重要性について講義があった。受講者からは、今までに対応に苦慮した年代についての質問もあり、真剣に受講している様子が見られた。

【３日目】

最終日の午前中は「自然体験活動の特質」として、千足耕一氏（東京海洋大学学術研究院教授）の指導による川下りを行った。川の流れも穏やかであり、前日のカヌーの基礎技術獲得により、全員がスムーズに漕艇することができた。途中にはアユを捕る仕掛け（瀬張り）もあったが、安全に通過することができた。また、受講者は野鳥や魚、水中生物などを見つけたり、河原の地形や景色を眺めたりして、多くの自然体験を通じて、様々な自然に目を向けられる視点を身に付けることができた。

１６　参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

＊満足：80%　　＊やや満足：20%　　＊やや不満：0.0%　　＊不満：0.0%

○　実際に自分が指導者になったときにはどうすればよいのか考えながら学ぶことができた。

○　期待以上の内容、成果を感じました。

○　細かな所までの心遣い、気遣いが大変有り難く、お世話をするという点でも学ばせて頂くことが多かったです。３日間ありがとうございました。

○　専門の知識をもった方のお話を聞いて、たくさんの知識を得られた。

○　カヌーが楽しかった。

１７　事業の成果

今回の受講者１５名のうち、初日から受講した８名は、社会教育施設職員と資格取得を目的とした社会人と学生であった。２日目からの受講した７名は、当施設で法人ボランティアとして活動する学生もしくは社会人と、九州からの参加の社会人であった。法人ボランティア養成講座の読み替え部分を前半に配置した企画は、それぞれのニーズを満たしたと考える。また、アンケートの回答からも読み取れるが、受講者は様々な講義・演習を通して、自分が指導者の立場になった時に、どのように対応すればよいか考えることもできたようである。今回はたくさんの講師に講義や演習を担当していただいた。受講者はより多くの学びを得ることができたのではないかと感じている。

１８　事業の課題

今回は平日を含む開催となり、社会人の方の参加が少し難しい部分もあったかもしれない。次年度は、祝日などを含む連休日に開催することで、より多くの方が参加できるのではないかと考える。また、日帰りでの参加も可能にするなど、柔軟な対応をすることで、より多くの受講者を見込むことができるように企画したい。内容については、「カヌー」を使った活動を取り入れたが、好評であったため次年度も取り入れたいところである。水温や気温が少し低かったので、開催時期をもう少し早めることで、改善できるのではないかと思う。河原での演習については、荒天時やダム放流時には実施困難になるので、代替案についても検討する必要性を感じている。

（担当：企画指導専門職　武藤 健太郎）